

科目番号	科目名	配当年次	授業形態	単位	担当教員
G203	ミクロ経済学Ⅱ	2年	講義	2	大石和博
授業概要 ミクロ経済学Ⅱではミクロ経済学Ⅰでの学習を踏まえて、「市場と厚生」、「企業行動と産業組織」などミクロ経済学Ⅰより発展的な内容について講義を行います。この授業で学ぶ需要供給分析は、都市に生起するさまざまな問題を考えるための有効な分析用具であり、3年次以降の学習や研究でも必要になります。なぜ企業は合併するのだろうか、臓器市場は存在すべきだろうか、といった日常生活での疑問や政府が直面する経済問題をとりあげます。できるだけミクロ経済学Ⅰの直後に履修してください。					
到達目標(学習の成果) ・ミクロ経済学の基本的な用語(消費者余剰、生産者余剰、死荷重など)を説明することができる。(DP3) ・比較静学分析を行うことができる。(DP3)					
授業計画					
回	表題	学修内容			
1	需要、供給、および政府の政策(1)	講義概要、復習(需要曲線、供給曲線)、第6章 税金			
2	需要、供給、および政府の政策(2)	第6章 課税は市場の成果にどのような影響を及ぼすか			
3	需要、供給、および政府の政策(3)	第6章 弾力性と税の帰着			
4	消費者、生産者、市場の効率性	第7章 消費者余剰と生産者余剰の測定			
5	課税の費用(1)	第8章 課税の死荷重			
6	課税の費用(2)	第8章 死荷重の決定			
7	課税の費用(3)	第9章 国際貿易			
8	生産の費用(1)	第13章 費用とは何か			
9	生産の費用(2)	第13章 費用のさまざまな尺度			
10	生産の費用(3)	第13章 短期と長期の費用			
11	競争市場における企業(1)	第14章 利潤最大化と競争企業の供給曲線			
12	競争市場における企業(2)	第14章 サंकコスト			
13	競争市場における企業(3)	第14章 競争市場における供給曲線			
14	独占(1)	第15章 なぜ独占が生じるのか			
15	独占(2)	第15章 独占企業の収入			

準備学修(授業外の自己学修)

最もよい準備学修は新聞を読むことです。特に、『日本経済新聞』をできるだけ毎日読むようにしてください。

成績評価の方法・基準(%表記)

原則として、提出物(40%程度)、期末試験(60%程度)で評価します。ただし、遅刻、欠席および受講態度不良は減点の対象となることがありますので注意してください。

観点	S	A	B	C
ミクロ経済学の基本的な用語を理解し、教科書レベルの問題を正しく解答することができる。	ミクロ経済学の基本的な用語を「十分に」理解し、教科書レベルの問題を9割以上正しく解答することができる。	ミクロ経済学の基本的な用語を「ほぼ十分に」理解し、教科書レベルの問題を8割以上9割未満正しく解答できる。	ミクロ経済学の基本的な用語を「かなりの程度」理解し、教科書レベルの問題を7割以上8割未満正しく解答できる。	ミクロ経済学の基本的な用語を「ある程度」理解し、教科書レベルの問題を6割以上7割未満正しく解答できる。
比較静学分析を行うことができ、教科書レベルの問題を正しく解答することができる。	グラフを用いて「正確に」分析でき、教科書レベルの問題を9割以上正しく解答することができる。	グラフを用いて「ほぼ正確に」分析でき、教科書レベルの問題を8割以上9割未満正しく解答できる。	グラフを用いて「かなりの程度」分析でき、教科書レベルの問題を7割以上8割未満正しく解答できる。	グラフを用いて「ある程度」分析でき、教科書レベルの問題を6割以上7割未満正しく解答できる。

教科書

下記の教科書を使用します。

N. グレゴリー・マンキュー『マンキュー経済学I ミクロ編(第3版)』東洋経済新報社、2013年、税込み 4,320円。

参考になる本:

- ① クルーグマンほか『クルーグマン ミクロ経済学』東洋経済新報社、2007年。
- ② 八田達夫『ミクロ経済学I』東洋経済新報社、2008年。
- ③ 八田達夫『ミクロ経済学II』東洋経済新報社、2009年。
- ④ 八田達夫『ミクロ経済学 Expressway』東洋経済新報社、2013年。

履修上の注意・学修支援

この科目を履修する前に、ミクロ経済学Iを履修して下さい。